

平成25年度第2回苫小牧市男女平等参画審議会会議録（概要）

- 1 日時 平成25年5月20日(月) 午後5時30分～午後7時20分
- 2 会場 苫小牧市女性センター4階 講習室A
- 3 出席者 苫小牧市男女平等参画審議会委員9名出席 1名欠席
事務局：市民生活部長、男女平等参画課長、主査、嘱託員
- 4 会議次第
①市民生活部長挨拶 ②副会長挨拶 ③議事 ④その他

5 議事概要

(1) 苫小牧市男女平等参画都市宣言文について

資料に基づき事務局から説明。

主な意見

○文章の全体の繋がりとして、真ん中に「わたしたち苫小牧市民は」と入っているのはどんなもんかなという気がするのですが。これはいっそのこと頭に持ってきて、「明るい未来を子どもたちにつなぐため 性別を超え 世代を超え」というように繋げたほうが文章の繋がりとしては良い気がするのですが。

○「明るい未来を子どもたちにつなぐため わたしたち苫小牧市民は」ということで強調しているところだから私は良いと思う。

○私は「平和」という言葉が二人の方から寄せられています。まとめの中のどの辺りで、この平和をさしていらっしゃるのか。それとも全体が平和ですよということを表しているのか、その辺をお聞きしたい。

○未来のところの前に「明るい平和な未来をつくるため」と入れると良いと思います。「新たな光」ですからやっぱり「明るい」という言葉が来ると思うんですね。そして未来がただ明るいのではなく、「明るく平和な未来」。

○これはすごく美文調と言うか、それとずっと1文で読み下す形式になっています。点とか丸を打たないで、中央寄せにしてこういう形式があるんだと思いますが、こういう形式になるのでしょうか。普通の日本語だったらちゃんと文章ごとにここで終わりという形で。ずっと繋がっているからどこが区切りか、苫小牧市民の収まりが良くないとかそういう議論が出てくると思います。こういう形式になるものなのか気になりました。

○1行目は先人たちの感謝、自然への感謝。次は躍動するという工業都市を表している苫小牧、そしてこれから永久に未来に向かってこの街を子どもたちにつなぐためにということだから、表現の仕方は良いと思う。

○歌を歌っているような、賛歌というか。苫小牧の歴史とかこれからの未来を。そういう意味で言ったら歌の歌詞って句読点とか入っていない。そういうような表現になるのかなと私は思っています。壁にでもこれを貼って自分が読むときにはこの方が読みやすいと思いました。

○「先人たちが築いた歴史と文化が薫り」これは実際に本州とか古くから歴史がある都市だとこれでいいのかもしれませんが、苫小牧のような割と新しい都市でこれを言って、どこまで伝わるのかなとちょっと思いました。歴史と文化という風にわざわざ言うのであれば、それなりの他の比較からすると、それ相応の都市でないといけないと思いました。先人が築いた文化をって言ってもどんなところでも文化があるのでいいんですけど、歴史というのはそれなりに古くからあるものを歴史というので、アイヌ文化とか、そういう所まで考えるんだったらいいのかなと思います。

○先人たちとなると、勇弘のことを思ったんですけど、この先人というのはもっと新しい先輩たちもこの先人に入ると思うんです。新しい土地であるだけに、もっと歴史があるところはあるなりに、私達は一番最初の千人隊からとっていても私は良いのではないかと思います。

これからもまた歴史は作っていくという決意でもあれば、私は良いのではないかと思います。

○歴史に拘っているのではなく、全体的に観光パンフレットに書いてあるうたい文句みたいだなと思って。それはそれでいいのかもしれませんが、さっき詩という言葉がありましたけど、もし詩をうたうのであればそれは詩人に任せなければいけない。すごく美文なんですけど、もうちょっと普通の文章にならないかなって感じたんです。永久（えいきゅう）に愛するを永久（とわ）と読まなくてもいいのではないかという気もします。ものづくりの鼓動を感じ躍動するまちとまこまい、これも歌の歌詞っぽい感じがすごくします。

○先人たちが築いた歴史と文化が薫り」…文化は薫らないです。あるとしたら私達が尊重するとか。「恵まれた自然につつまれ」はいいと思います。

○上が苦小牧の観光文になっていて、下の方は男女平等参画の宣伝文になっていて両者がうまく繋がらないまま終わると言う印象があります。

○歴史と文化が薫るのところは、すごく先人たちを尊敬する意味合いで、においじゃないんです。これは肌で感ずることだから、私は良いと思う。

○私は文学的なことはわからないけど、薫るっていうのはいいと思います。

○「わたしたちの愛するこのまちに 新たな希望の光をそそぎ」という希望も入れて欲しい。

○新たな光、光は比喻です。比喻が多いです。比喻は確かに単独で使ったら上品だと思うけど、比喻だけをずっと並べられてもどうかかと。薫るも比喻で。比喻をもうちょっとなんとかならないかこれを見たときに思います。

○苦小牧ってどんな街なんだろうという歴史から始まっていつている。ひっかかることを直していけば順序としては何もおかしくないと思う。どんな街に私達は生きているんだろうということ、どういう歴史があつて、どういうところに現在住んでいる苦小牧の市民なんですということを表すところだから。

○男女平等参画ということで柔らかい文面というのは必要ではないか。特に女性の視点を入れるということになれば表現は柔らかい方がわかりやすい。それからボリュームが増えない形になると、私は良いと思います。なかなか言わんとすることを盛り込みますと、カチンカチンになってしまって…。バランスとしても良いと思う。

○私も良いと思います。他の市のものを見させてもらったんですけど、とても見づらいというか硬いんです。そうなるこの形になるとポンッと入ってこれるというか、子どもから大人までみんなが見て、スッと入ってこれる形にしてもらった方が良いと思います。

○子どもという言葉と未来という言葉がどこかに入れれば良いと前回の時に出ていました。

○「ものづくりの鼓動」というのも比喩表現で、ものづくりの鼓動って何だろう、よくわからないです。

○いろんな企業の立地していく時の鼓動を表したと思います。

○言葉を尊重だとかに変えていくとカチンカチンになります。下の方の宣言文でカチンときているんだから前文の方で（柔らかく）、前文の方もカチンカチンにしなくてもいいのではないかと思います。

○別にカチンカチンにするのが必要だとは思わないですが、これはずっと読まれるわけです。ずっと読まれるということを考えた場合に、なんとなく聞いて耳障りの良い言葉だけを並べるということだとちょっとまずい気がしました。やっぱり言葉ひとつ伝わるにもそれなりの意味というのを必ずこめなければならない。イメージとか雰囲気とかっていう言葉だけで繋ぐのは、それは結局何も伝えてないことなわけで、危険なことかなと思います。他に適切な言葉がない

のかとか、そういうことを考えてもいいと思う。ここで歴史と文化という言葉を使う場合には、やっぱりそれ相応の意味を込めなければならないです。歴史と文化っていうふうに漠然と言ってもそれは何も伝わらない。

○これを読む人が実際に男女平等参画ということに意識が高い人とは限らない。これは何だと言われたいようにしなくてはいけないとすごく感じているんです。できるだけ浮ついた言葉にならないようにしてほしいというのがあります。「歴史と文化」と言われたんだったら、こういう意味だということをちゃんと説明できなければいけない、それはすごく思います。

○鼓動と躍動ってどっちも比喻だから、比喻と比喻が続くとわからなくなる。鼓動は比喻として色々広がりがある言葉として残すならその他の比喻は削るとか、躍動するは活気あふれるでもいいし、そういう意味の言葉が良い。そうすると鼓動は比喻だってことが分かります。

など、意見をいただきました。

(2) その他：第3回の審議会の開催日時について

○次回は6月3日（月）午後5時30分からに決定